

1 本部例会	
2002年	日本音楽理論研究会 2002.10.26.(土)14:00～ カンマーザールin立川4F 第1回例会 統一テーマ:「音楽理論の現状と課題」 基調講演:島岡 譲「音楽理論とは何か?~私の場合」 シンポジウム:「音楽理論の現状と課題」 コーディネーター:島岡譲 パネラー:小川原美子 小川伊作 柳田憲一
2003年	日本音楽理論研究会 2003.5.24.(土)13:50～17:30 カンマーザールin立川4F 第2回例会 見上 潤:旋法理論 再構成の試み~教会旋法から近代旋法まで 小川伊作:バッハのフーガの旋法的分析の試みと若干の問題提起-平均律第1巻第1番BWV846のフーガ分析 三上かーりん:『詩から生まれた音楽』SchumannのLiederkreis op.39「トボスとしてのサブドミナント」 遠藤信一:ラヴェル「水の戯れ」の分析 日本音楽理論研究会 2003.10.4.(土)11:00～ GGサロン 第3回例会 統一テーマ「音楽教育の現状と課題」 基調講演:大宅 寛:「創作指導の体系試案としての大宅方式」 シンポジウム:「音楽教育の現状と課題」 コーディネーター:島岡 譲 パネラー:大宅 寛 楠瀬敏則 鈴木一真 遠藤信一
2004年	日本音楽理論研究会通信第1号発行 2004年4月1日 日本音楽理論研究会 2004.5.23.(日)13:50～17:30 GGサロン (東京都豊島区千早1-16-14現代ギター社4F) 第4回例会 発表1 小川原美子:楽曲分析 ドビュッシー「前奏曲集第1巻」より「IV 音と香りは夕暮れの大きに漂う」、「VII 亜麻色の髪」 発表2 見上 潤:「旋法理論 再構成の試み(2)音素材の淘汰・分類の方法論とその階層構造」 日本音楽理論研究会 2004.10.3.(日)13:50～17:30 AI(アイ)スタジオ 第5回例会 講演1 中村佐和子:「ソナタ形式の授業風景」 講演2 楠瀬 敏則:「音楽の基礎教育の課題」
2005年	日本音楽理論研究会 2005.5.22.(日)13:50～17:30 AI(アイ)スタジオ 第6回例会 修士論文1 小林直樹:「シヨスタコーヴィッチの音楽語法」 修士論文2 角口琴英:「ペラ・バルトークの弦楽四重奏曲における音楽語法」 講演 増田宏三:「グレゴリオ聖歌の音組織について」 日本音楽理論研究会 2005.10.2.(日)13:50～17:30 AI(アイ)スタジオ 第7回例会 内容 基調講演1件 シンポジウム1件 基調講演 永富 正之:「日本におけるソルフェージュ教育の問題点ー和声についてー」 シンポジウム:「調性感の育成について」 コーディネーター:永富 正之 パネラー:島岡 譲、古曾志洋子
2006年	日本音楽理論研究会 2006.5.21.(日)13:50～5:30 AI(アイ)スタジオ 第8回例会 修士論文発表 齊藤慶子:「J.S.バッハ《フーガの技法》BWV1080の未完のフーガにおける全体像」 研究発表 小川原美子:「楽曲に隠された声部様式」 柳田憲一:「終止(D-T)におけるV諸和音の形態変化について~Noël-GALLONの84 solfège des concoursより~」 日本音楽理論研究会 2006.10.1.(日)13:50～17:30 AI(アイ)スタジオ 第9回例会 内容:フォーレの歌曲~詩と楽曲分析 発表者:島岡 譲 金原礼子
2007年	日本音楽理論研究会 2007.5.20.(日)13:50～17:40 AI(アイ)スタジオ 第10回例会 1 修士論文発表 稲崎 舞:「ストラヴィンスキー《ふくろうと小猫ちゃん》分析と解釈」 2 旋法と和声:ガテンコ対決 発表とシンポジウム 見上 潤 「【旋法理論 再構成の試み 3】教会旋法の巻 ~今日からあなたも教会旋法の達人!~」 小川伊作:「実作品にみる旋法的和声」(ルイス・ミランのファンタシアの分析) 教会旋法ガテンコ対決:小川伊作 vs 見上 潤 日本音楽理論研究会 2007.10.7.(日)13:50～17:40 AI(アイ)スタジオ 第11回例会 注目! 音楽言語学の試み 講師:島岡 譲
2008年	日本音楽理論研究会 2008.5.18.(日)13:50～ AI(アイ)スタジオ 第12回例会 1. 古曾志洋子:「和声学をはじめの前にー島岡 譲「和声のしくみ・楽曲のしくみ」(2006.)を心地よく読み、納得できる耳を育てるソルフェージュとは?」 2. ローラン・テシュネ:「明日のためのソルフェージュ教育」 (Laurent Teycheney: "Pour l' enseignement du solfège de demain") 日本音楽理論研究会 2008.10.5.(日)13:50～5:40 AI(アイ)スタジオ 第13回例会 大注目! 続・音楽言語学の試み 講師:島岡譲
2009年	日本音楽理論研究会 2009.5.17.(日) 13:50～17:40 AI(アイ)スタジオ 第14回例会 テーマ:「ドイツ・リート 詩と音楽」 第1部 三上かーりん:恋の双六)ーシューマン《詩人の恋》調性による心理学的場面転換ー 第2部 島岡 譲:ドイツ・ロマン派の音楽語法ーシューマンの「語り」を読み解くー 日本音楽理論研究会 2009.10.4.(日) 13:30～17:40 AI(アイ)スタジオ 第15回例会 テーマ: 音楽におけるカオスとコスモス 第1部 見上 潤: ベルク《7つの初期の歌曲》の近代和声語法ー第1曲「夜」における無調性(カオス)と調性(コスモス)の対照原理ー 演奏:ソプラノ独唱 小川えみ ピアノ 見上 潤 第2部 永富正之: ハイドンのオラトリオ「天地創造」の「混沌」の和声法
2010年	日本音楽理論研究会 2010.5.16.(日) 13:30～17:40 AI(アイ)スタジオ 第16回例会

- 第1部 今野哲也：(13:30-15:25)
ベルク《アルテンベルク歌曲集》の楽曲分析 —第2～4曲を中心に—
第2部 小川伊作：(15:45-16:40) ビウエラ歌曲にみる悲劇性の表現
アロンソ・ムダラAlonso Mudarra《ダヴィデ王は悲しんでいた Triste estava el Rey David》
ソプラノ独唱：小川えみ ビウエラ：小川伊作

日本音楽理論研究会 会2010.10.3.(日) 13:30-17:40 AI(アイ)スタジオ
第17回例

内容：シューベルト《美しき水車小屋の娘》詩と音楽の分析
講師：島岡 譲：第6,7,10,12,16,19,20曲の音楽分析
★ 同日ブレ企画：シューベルト《美しき水車小屋の娘》全曲演奏会 10:30-12:00
ソプラノ独唱：小川えみ(音楽理論研究会専属歌手) ピアノ：見上 潤

2011年 日本音楽理論研究会 2011.5.15.(日)12:30-17:40 AI(アイ)スタジオ
第18回例会

統一テーマ：J.S.バッハの作曲技法とその近代音楽への射程<p>
1. 小河原美子：「バッハの平均律第2巻23番のフーガにおける対位法技法と和声」
2. 大野聡：「バッハの作品にみられるソナタ形式の萌芽」 13:40-15:20
3. 宮川直己：報告「音楽アーカイブ設立のお知らせ」 15:40-15:50
4. 福田由紀子：「ゆれの理論」から見たDebussy音楽の分析」 15:50-17:30

日本音楽理論研究会 会2011.10.2.(日)10:30-16:40 AI(アイ)スタジオ
第19回例

統一テーマ：—詩と音楽から読み解くシューベルト《冬の旅》—
第1部 三上かーりん・見上 潤：「詩から読み解くユニゾンの音楽的意味 Schubert Winterreise」
第2部 島岡 譲：レクチャー「音楽の言葉で読み解くシューベルト《冬の旅》」

2012年 日本音楽理論研究会 2012.5.13.(日)10:30-17:40 AI(アイ)スタジオ
第20回例会

統一テーマ：—続・詩と音楽から読み解くシューベルト《冬の旅》—
1. 特別演奏：Schubert《Winterreise》ソプラノ独唱：小川えみ ピアノ：見上 潤
2. 浅田秀子「シューベルト『冬の旅』の裏物語—異界のヘルメス」
3. 島岡 譲：「続・音楽の言葉で読み解くシューベルト《冬の旅》」(第19回例会の続き)

2015.4.5 日本音楽理論研究会 2012.10.7.(日)13:30-17:40 AI(アイ)スタジオ
追加↓ 第21回例会

1. 「洋楽渡来と野生の思考(パンセ・ソバージュ) —洋楽流入期における民俗的思考に関する構造人類学的研究—」 川崎瑞穂

2013年 日本音楽理論研究会 2013.5.19.(日)13:30-17:40 AI(アイ)スタジオ 【リヒャルト・ヴァーグナー生誕200年特集】
第22回例会

1. 見上潤：「トリスタン和声が生み出す妖しい響きについて考える」 ソプラノ独唱：小川えみ ピアノ：見上潤
2. 磯山雅：「ワーグナーにおけるドミナントの拡大について」

日本音楽理論研究会 2013.10.6.(日) 13:25-17:45 AI(アイ)スタジオ
第23回例会

1 小泉優莉菜：「かくれキリシタンの唄おらしよ〜長崎県生月島寄部地域の音楽的事例研究〜」
2. 鷺淵泰通：「短三和音に特殊な、内在的不協和性の自然的根拠」
■博士課程学位取得者研究報告
3. 池原舞：「ストラヴィンスキーの《レクイエム・カンテリクス》における作曲プロセス」
4. 今野哲也：「アルバン・ベルクの初期歌曲の「和声構造」——調性および「無調性」の分析理論の批判と分析方法の試論を通して——」

2014年 日本音楽理論研究会 2014.5.18.(日) 13:30-17:50 AI(アイ)スタジオ 【ロシア音楽特集】
第24回例会

1. 川崎瑞穂：【研究報告】「ロシア構造言語学と音楽分析 —— 奥秩父山地の民俗音楽に関する音韻論的研究 ——」
2. 池原舞：【研究報告】「ストラヴィンスキー《結婚》における旋律の拍節構造と小節線」
3. ミニコンサート：=ロシア歌曲のひとつき=(分析・解説資料配布)
1. スクリャービン 《ロマンス》(ca.1893)
2. ラフマニノフ 《歌うな、美しき女よ》Op.4 no.4 (1893)
ソプラノ独唱：小川えみ(本研究会専属歌手) ピアノ：見上潤
4. 佐野光司：【研究報告】「スクリャービンの神秘和音《交響曲第5番プロメテ》に至る過程」

日本音楽理論研究会 2014.10.5.(日) 13:30-17:50 AI(アイ)スタジオ 【ロシア音楽特集】
第25回例会

1. 平本 幸生【研究報告】「自作曲の分析と、ブルーノート・ペンタトニックスケールについて」
2. 石川 智寛【研究報告】「バルトーク『ルーマニア民族舞踊』sz.56 より第2曲「常踊り」の機能と声理論による分析」
3. 夏田 昌和【研究報告】「自作曲(2種の形象1によるコンポジション「J.S.Bへのオマージュ」)(2013)の分析」
4. 小川 伊作【研究報告】「新しい楽典の試〜『ギター譜で学ぶ新楽典』〜著者自身による解題」

2 支部例会

1 大分支部例会

- 2002年 第1回大分例会 2002.11.16.(土)10:00~17:00 大分県立芸術文化短期大学音楽棟小ホール
講師：島岡 譲
講義内容：午前「和声の文法」〜音楽分析の基礎 午後：実作品の分析(ドビュッシー：「アラベスク1番」および前奏曲集第1巻「沈める寺」)
- 2003年 第2回大分例会 2003.11.15.(土)10時~17時 大分県立芸術文化短期大学音楽棟小ホール
講師：島岡 譲
テーマ：バッハ平均律クラヴィア曲集の分析
「楽曲分析の基礎」と「楽曲分析 平均律クラヴィア曲集 I 巻 第1番BWV846・第2番BWV847・第13番BWV858・第16番
- 2004年 第3回大分例会 2004.11.21.(日) 大分県立芸術文化短期大学 芸術棟3F講義室A
内容 特別講義：シューベルト作曲「冬の旅」
講義1 三上かーりん：「詩から生まれた音楽(冬の旅)〜シューベルトの歌曲集を辿る」
講義2 島岡 譲：楽曲分析
- 2005年 第4回大分例会 2005.11.20.(日) 大分県立芸術文化短期大学 芸術棟3F講義室A
1. 小河原美子：楽曲分析：ドビュッシー「前奏曲集」1巻より「デルフィの舞姫」「帆」ほか
2. 三上かーりん：楽曲分析：シューベルト「魔王」
- 2006年 第5回大分例会 2006.11.12.(日)10:00~17:00 大分県立芸術文化短期大学音楽棟小ホール
テーマ：フォーレの歌曲〜詩と音楽の分析
講師：島岡譲(国立音楽大学名誉教授)、金原礼子(元筑波大学教授)
分析対象曲：「リディア」「イスファハンのぼら」「月の光」ほか(すべて原調)
- 2007年 2 東京支部例会
第1回東京例会 2007.7.29.(日) 13:00-17:40 杉並公会堂 Aスタジオ
1. 今野哲也：「クリスタル和音 理論化への試み ——古典から近代まで——」

2. 大野聡:「シューベルト ピアノソナタ変ロ長調D. 960第一楽章の分析—ロマン期のソナタ形式の一例として—」
3. 岡崎登代子:「J.S.バッハ 平均律クラヴィア曲集第2巻第13番 Fis-durフーガをめぐって」
4. 見上 潤:「【旋法理論 再構成の試み 4】5音階のトリコルド分析とその応用諸形態」
- 2008年 第2回東京例会 2008.3.30.(日) 12:40-17:30 AI(アイ)スタジオ
1. 見上 潤:【旋法理論 再構成の試み5】教会旋法と調性 ~調のコンステレーションとその意味論~
2. 生塩曜:ドビュッシー《牧神の午後への前奏曲》に見られる調性拡張の試み
3. 齊藤 紀子:ショパン《練習曲集》作品10及び作品25の統合性に関する一考察
4. 今野哲也:ヴァーグナー《トリスタンとイゾルデ》前奏曲の分析—導7の和音の「ひびき」を中心とした——
5. 大高誠二:音階の構造と機能理論の関係 ~和音を分解的に捉える試み
- 第3回東京例会 2008.8.3.(日) 12:30-17:30 AI(アイ)スタジオ
1. 福田由紀子: 構造分析における調と和声の重要性 (J.S.Bach, Partita Nr.1 B dur)
2. 岡崎登代子: J.S.Bach, Das wohltemperierte Klavier II, Nr.17 As durPraeludium und Fuge
3. コラム講義 島岡 謙:【解題『総合和声』原理篇】“半ずれ”とは何か?—ドビュッシー《前奏曲集》第2巻(カノープ)の解釈
4. ワークショップ 瀧廉太郎《納涼》(1900、明治33.)の分析と演奏法
A. 小川伊作: 瀧廉太郎再発見! 音楽史とエクリチュールのはざままで 一組歌『四季』第2曲『納涼』を巡って—
B. 見上 潤: 声楽的観点を取り入れた歌唱ソルフェージュの実践的考察 一瀧廉太郎《納涼》を題材にした音高・リズム・
母音の立体的構造の分析—
- 2009年 第4回東京例会 2009.3.29.(日) 12:30-17:40 AI(アイ)スタジオ
統一テーマ:【音楽分析の方法と課題】
1. 大野聡: 超入門ドイツリートの世界—シューベルト有節歌曲の魅力—
《野ばら》《トゥーレの王》《笑いと涙》《さすらい人の月に寄せる歌》
2. 今野哲也: いま明かされる「ひびき」の秘密—調性と無調性の狭間で—
3. 見上 潤:「ことば・おと・こえ」三位一体理論 全貌公開
3.1.“知られざる”ショパン歌曲《僕のいとしい人》の総合分析
3.2.—ポーランド語歌詩の発音・文法分析+音楽分析+ドルチェカント歌唱法による 参加型演奏研究—
4. パネル・ディスカッション:【ガチンコ放談】音楽理論、生かすも殺すもあなた次第!!!
コーディネーター:見上 潤 パネリスト:阿久津東真 大野聡 今野哲也 横山聡
- 第5回東京例会 2009.7.26.(日)12:30-17:40 AI(アイ)スタジオ
第1部 岡崎登代子:J.S.バッハ《平均律クラヴィア曲集》第2巻第23曲ロ長調 前奏曲とフーガの構造と和声
第2部 ガチンコ対決:初期ベルクの音楽語法を斬る!—《4つの歌曲》作品2をめぐって—
1. 見上 潤:初期ベルクにおける移限音楽材(Otogenom理論による)の使用法について —《7つの初期の歌曲》より「夜」の分
析を中心にして—
2. 今野哲也: ベルク《4つの歌曲》作品2より第2曲、第3曲の分析
3. ディスカッション
演奏: ソプラノ独唱 小川えみ ピアノ 見上 潤
- 第6回東京例会 2009.12.20.(日) 12:30-17:40 AI(アイ)スタジオ
第1部 岡崎登代子: J.S.バッハ《平均律クラヴィア曲集》第2巻第21曲 B-dur 前奏曲とフーガの構造と和声 (12:30-
第2部 続・ガチンコ対決:初期ベルクの音楽語法を斬る! 今野哲也vs.見上 潤:
—アルバン・ベルク《4つの歌曲》作品2第4曲と近代和声の分析法をめぐって—
演奏: ソプラノ独唱 小川えみ ピアノ 見上 潤
- 2010年 第7回東京例会 2010.3.28.(日)10:30-16:40 AI(アイ)スタジオ
1. 福田由紀子: Johannes Brahms作曲「6つのピアノ小品 作品118」の和声技法の解明
2. 小田裕之:ヨセフ・スーク《子守唄》作品33(Josef Suk, Ukolé bavky Op.33)の作品分析と演奏法
第8回東京例会 2010.12.19.(日) 12:30-17:40 AI(アイ)スタジオ
1. 見上 潤:シューベルト《美しき水車小屋の娘》《冬の旅》の調性構造の比較と階名(移動ド)唱法のテクニク—声楽家の
ための音楽分析入門—
2. 横山聡:ピアノの性能と演奏時の身体性を考慮した音楽分析—ショパン《練習曲集》作品10-1 C-durの理想的な演奏再
構築のために
3. 大高誠二: 課題未定 (拍節の定義やその本質に関するテーマ)
4. 水崎寛明: コンピューター解析による転調理論構築の試み
- 2011年 第9回東京例会 2011.12.18.(日) 12:30-17:40
チーム発表:「メシアン《ピアノのための前奏曲集》をめぐって—移調の限られた旋法・島岡ゆり理論の近代和声への応用・
メシアンの色彩構成—赤坂樹里亜 西山タカスケ 見上 潤
1. 見上 潤:「今日からあなたも“移調の限られた旋法”の達人!—メシアンM.T.L.攻略法伝授—」
2. 赤坂樹里亜:「メシアン《ピアノのための前奏曲集》(1928-29)のアナリゼ」
3. 西山タカスケ:「メシアン《ピアノのための前奏曲集》(1928-29)の色彩構成 —メシアン・メモのリアリゼーション—」
- 2012年 第10回東京例会 2012.3.25.(日) 12:30-17:40
1. 横山聡:「続・ピアノの性能と演奏時の身体性を考慮した音楽分析—ショパン《練習曲集》作品10-1 C-dur、及び作品 25-
12 c-mollの理想的な演奏再構築のために—」
2. 福田由紀子:「Debussyの音楽に見るほかしの技法」(前奏曲集第2巻「火花」の分析)
3. 今野哲也:「ベルク《叙情組曲》の分析」
- 第11回東京例会 2012.12.16.(日) 12:30-17:40
=ペーターヴェン特集=
1. 大野聡:「単純な和声に支えられた単純な動機から作りだす壮大な展開(ドラマ)」(12:30—)
(ペーターヴェン《交響曲第3番》《弦楽四重奏曲第7番》の第一楽章)
2. 佐野光司:「ペーターヴェンの新しい道」(15:00—)
- 2013年 第12回東京例会 2013.3.31.(日) 13:30-17:40
1. 寺内克久:「スタンダードナンバー“Autmun Leaves”のアレンジバリエーションにみるジャズ表現の可能性」(13:30—14:30)
2. 今野哲也:「タイトル詳細未定 (ベルク《山を越えて》(U'ber den Bergen)の分析)」(14:30—15:30)
ソプラノ独唱: 小川えみ ピアノ: 見上潤
3. 浅田秀子:「続・シューベルト『冬の旅』の裏物語—冥界のヘルメス」(15:50—17:30)
- 2015.4.5 第13回東京例会 追加↓
2013.12.8.(日) 13:30-17:45 AI(アイ)スタジオ
1. 平本幸生:「自作曲の分析と、和声学の例外的用法」
2. 大野聡:「モーツァルトにおけるソナタ形式と多声音楽技法の出会い(モーツァルト《弦楽四重奏曲第14番長調》K.387 第4楽章)」
3. 福田由紀子:「「ゆれ」と「かげり」から見たChopinの「前奏曲集 作品28(No.1,4,7,8,13,14,15)」—楽曲構造とピアノリズムの分析—」
- 2014年 第14回東京例会 2014.3.30.(日)13:25-17:40 AI(アイ)スタジオ
1. 阿久津東真:【研究報告】「イタリアオペラはなぜ面白い?—イタリア語を知らなくても楽しめるその秘密を探る—レオ
ンカヴァッロ《道化師》を題材にして」 ソプラノ独唱: 小川えみ ピアノ: 見上潤
2. 寺内克久:【研究報告】「The Beatlesの和声進行分析から、コード進行による作曲技法を考える」
3. 大高誠二:【研究報告】「拍節の中の和声—“音の重なり”を超えて」
4. 稲森訓敏:【特別講義】「音楽のリズム—マティス・リュシエとあなたの《演奏・指導》を変える彼の実用的リズム理論—」
- 第15回東京例会 2014.12.14.(日)12:30-17:50 AI(アイ)スタジオ
1. 阪本佳郎:「トニガトリフの映像詩学における音楽の位相—ジプシーアイデンティティの表象を軸として—」

2. 見上 潤「ブッチーニ《蝶々夫人》よりアリア「ある晴れた日」の分析—「ことば・おと・こえの三位一体理論」による—
3. Neralt:「サンプリングカルチャー、DJカルチャー以降の音楽家のための実践的な音楽理論書」である自著『Traditional Music Theory For Contemporary Musicians』執筆の動機と特徴の紹介
4. 福田由紀子「「ゆれ」と「かげり」から見たChopinの「前奏曲集 作品28」—楽曲構造とピアノリズムの分析— その2 (No.2, 5,

第16回東京例会

2015.329.(日)12:30-17:50 AI(アイ)スタジオ

1. 見上 潤:「チャイコフスキー《ただ憧れを知る者だけが》Op.6 No.6(1869)の分析—「ことば・おと・こえの三位一体理論」について—
2. 三浦領哉:「V.F. オドエフスキーの音楽思想—19世紀前半のロシアにおける西欧芸術音楽の受容をめぐって—
3. 池尾舞:「ストラヴィンスキーの作曲法—五線紙の切り貼りをめぐって—
4. 寺内克久「ユーマン音楽レポートと音楽的クオリアによる作曲の可能性」副題:日本人の心の情景を変えたシンガーソングライターへの手紙」
5. 川本聡胤:「JPOPの「J」」
6. 左原詩昔:「ペンデレツキの音響主義〜クラスターとノイズの概念、ポーランド楽派について〜」